

3つのポリシー

家政学部

〔ディプロマポリシー〕

家政学部のディプロマポリシーは、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の3つのカテゴリーで構成されます。学位授与の規定は、学科が定める所定の単位を修得し、学士力、専門職能を身に付け、女性のもつ能力を活かした専門的職業人としての使命感や責任感が持てる人であることが重要となります。さらに、多世代にわたる対人関係力を身に付け、社会の一員として適切な行動ができている者に学位を授与します。

〔カリキュラムポリシー〕

家政学部は、建学の精神であり、学園の信条である「親切」を根幹としています。したがって、教育課程では、「個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏った、よき家庭人であり力強い職能人としての女性を育成する」ことを第一の目的としています。この目的を達成するため、学部全体（学士課程）では、女性として活かしたコミュニケーション能力をもち、それぞれの専門職におけるリーダーとして社会貢献のできる人材を育てるための教育課程を編成します。まずは、学士力向上を目標とした教養科目、外国語科目などを他学部と共通で設け、幅広い視野に立った豊かな人間性を育成します。次に、家政学に関わる基礎科目を開設し、人間生活と環境の関係を科学的に追究することによって、快適な生活を送る能力や技術を身に付けることを目的とした専門科目を体系的に配置します。

〔アドミッションポリシー〕

名古屋女子大学は、長年にわたり学園の信条である「親切」を根幹として、個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に付け、真の男女平等の実現を目指し、よき家庭人であり力強い職能人としての女性を育成してきています。これらの教育目的を達成するため、家政学部は、日常生活を総合的に捉え、学科が示す、衣・食・住等の家政学全般に関わる専門知識や技術が身に付けられるよう、そして、自立した女性であり、同時に、専門的職業人として社会貢献をしたいと願う人材を求めています。

生活環境学科

〔ディプロマポリシー〕

1 達成目標

住環境、衣環境、食環境等とビジネスや情報等の知識や技術を習得しており、本学特有で伝統的な“生活科学・環境”に関する基本的思考力を身に付け、学問的に発展させ、その成果を社会に活かすことのできる人材となることを達成目標としています。

2 学修成果

「学士」を授与される学生は、以下のような知識や能力を有します。

- ・知識・技能：生活をとる住・衣・食とビジネス・情報に関する環境の本質を理解できるような生活環境学に関する知識や技能を身に付けている。
- ・思考力・判断力・表現力：生活環境に関する問題を把握し、解決するための思考力と判断力を身に付け、生活環境に関する自分自身の考えを他の人々にもうまく伝えることができる表現力がある。
- ・主体性・多様性・協働性：自分の知識や技術を信じ、主体的に探究し続けることができる能力、そして、必要な使命感や責任感を持ち、自ら成長しようとする姿勢および態度を身に付けている。

〔カリキュラムポリシー〕

1 教育課程の編成目標

- (1) 住分野では、建築設計や建築計画など 10 領域を用意し、住環境における専門家として活躍できる能力を養います。
- (2) 衣分野では、人間に最も近い環境として被服を捉え、被服の材料から被服の製作・管理までの理論・技術をバランスよく習得し、アパレル業界のスペシャリストとして活躍できる能力を養います。
- (3) 食分野では、食品・栄養・調理を中心とした食に関する知識を習得し、外食産業界で活かせる感性、技術および企画力を身に付け、フードスペシャリストやフードコーディネーターとして活躍できる能力を養います。
- (4) ビジネス・情報分野では、これらの知識と技術を習得し、賢い消費者であるとともに、女性のより一層の社会進出を促進するためのキャリア能力を育成し、生活に関わる諸問題の解決能力を養います。

2 教育課程の編成と特色

(1) セメスター制と GPA

1. セメスター制を導入し、1 年を前期、後期に分け、半期で完結する授業を行います。
2. これにより学生は、半期ごとに時間割を見直すことが可能となり、受講の選択の幅が広がることや、さらに意欲的な学修機会（留学や研修など）の組み込みが可能となります。
3. GPA を活用して学生指導を適切に実施します。

(2) 共通科目の設定・充実

1. 学びの導入として、1 年次に初年次セミナーと初年次演習、2 年次に基礎ゼミを履修し、大学生活における学修の目標を見定めて専門科目を履修する目的の確認やモチベーションの高揚を目指します。
2. 「人間形成」「一般教育」「外国語」「情報・表現」などのカテゴリーに分けた全学共通科目と家政学の基礎となる科目を配置します。

(3) 履修モデルの具体化

1. 「建築・インテリア」「ファッション」「フード」「ビジネス・情報」そして「教職」の履修モデルを設け、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーにより分かりやすく示しています。
2. 住環境分野、衣環境分野、食環境分野、ビジネス・情報分野に関わる 2 つ以上の分野に強い人材育成が可能な科目配置を行います。
 - ① 住居学に強く、二級建築士、一級建築士の受験資格取得を支援し、目標が達成できる科目配置
 - ② 衣環境に強く、2 級テキスタイルアドバイザー等の資格取得支援のための科目配置
 - ③ 食環境に強く、フードスペシャリストやフードコーディネーターの資格取得支援のための科目配置
 - ④ ビジネスや情報に強く、そのエキスパートとしての高い専門性と確かな技術の修得と専門資格取得支援のための科目設置
 - ⑤ 家庭科教員（中学校・高等学校）となるための教職課程の設置と科目配置（オプション）

(4) 専門科目群

基礎科目（必修 10 科目、選択 12 科目：講義 17 科目、演習 1 科目、実習 4 科目）、建築・インテリア科目（選択 38 科目：講義 20 科目、演習 16 科目、実験 2 科目）、ファッション・テキスタイル科目（選択 19 科目：講義 7 科目、演習 7 科目、実験 2 科目、実習 3 科目）、栄養・フード科目（選択 12 科目：講義 5 科目、演習 4 科目、実験 1 科目、実習 2 科目）、ビジネス・情報科目（選択

1 5科目：講義6科目、演習9科目)

3 学修成果測定

- ・ルーブリックによる学修成果の可視化
- ・学修 (e) ポートフォリオによる学修成果の蓄積
- ・家政学および生活環境学全般に関わる学修達成度調査、専門知識・技能に関する「卒業研究 (発表・論文・製作)」の公表

4 学修環境

学修成果を生み出すために以下のような学修環境を提供しています。

- ・産学官連携による PBL などのアクティブラーニングの実施
- ・異文化コミュニケーション (海外研修)
- ・少人数制を重視した教育 (ゼミナールなど)
- ・演習・実験を通じ、内容の深い理解と体験
- ・スキル育成のための入門的な科目 (初年次セミナー、初年次演習、基礎ゼミ、情報、語学など)
- ・各分野の社会における体験と就職活動のための状況認識 (体験型学習プログラム)

特に、理論から演習・実験という科目を通じて、内容の理解、体験、スキル獲得を行い、より高い技術を確実に身に付けることができます。また、3年次、4年次に「アカデミックスキルズ」「卒業研究」を連続履修して卒業論文 (選択) を作成し、さらに、ディプロマポリシーに沿った資格取得支援プログラムも設けています。

[アドミッションポリシー]

1 教育目的・人材育成目標

循環型社会における生活のあり方を探究し、衣・食・住・ビジネス・情報環境に関する専門知識や技術を有する人材の育成を行っています。

- (1) 住分野では、住環境における専門家として活躍できる人材
- (2) 衣分野では、人間に最も近い環境として被服を捉え、アパレル業界等のスペシャリストとして活躍できる人材
- (3) 食分野では外食産業界等で活かせる感性、技術および企画力を身に付けたフードコーディネーターやフードスペシャリストとして活躍できる人材
- (4) ビジネス・情報分野では、金融・一般企業で活かせる簿記能力と情報処理能力を身に付けたキャリアウーマンやファイナンシャルプランニング技能士として活躍できる人材
- (5) 家政学全般に関わる知識や技術を備えた中学校・高等学校の家庭科教員として活躍できる人材

2 求める学生像

- (1) 知識・技能：家政学は幅広い知識を基礎としているため、高等学校では英語、国語、社会、数学、理科など多様な科目を幅広く履修した十分な基礎学力をもつ者
- (2) 思考力・判断力・表現力：物事を多面的に捉え、人の意見を正確に理解し、自らの意見を持ち、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる者
- (3) 主体性・多様性・協働性：循環型社会における生活のあり方、住環境、衣環境、食環境、ビジネスや情報環境を理解することに意欲や関心を持つ者、家政学全般に関わる専門知識や技術 (技能) を身に付け、家庭科教員を目指す者